

☆2009年11月6日発行 ☆隔月発行

☆発行／大阪大学学生部キャリア支援課 http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm

☆編集／大阪大学学生部キャリア支援課 〒565-0871 吹田市山田丘1-1

INTERVIEW

合宿研修に向けて

大和谷厚教授 木川田一榮教授 太刀掛俊之准教授 — 2～5

REPORT

そこまでやって委員会

いちょう祭活動報告No.2 — 5

平成21年度合宿研修レポート

1年次対象プログラム — 6・7

2年次対象プログラム — 8・9

3年次対象プログラム — 10・11

ADVERTISEMENT

第22回学生生活調査のお知らせ。。。ほか — 12



めざせ 仕掛け人！！！！

大和谷教授 木川田教授 太刀掛准教授をお迎えし、
学生支援G P「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」についてお話をいただきました。



きっかけ

尾野 大和谷教授 このプログラムを考えたきっかけを教えてください。
このプログラムを考え出したのは、学生生活委員会の委員長をしている頃、6年前（大学が法人化する前）です。
私が学生生活委員会委員長になった時に何を考えたかという、これからの学生支援のあり方ですね。阪大には非常に多様な学生がいます。障害を持った学生もいるし、大学院生でお子さんをお持ちの学生もいるので、それぞれ考え方も違う。そのなかで支援をするということになると多彩な支援をしなければならないだろうと考えました。ちょうどその頃に大学も国立大学法人化という話が出てきて、法人化以降の学生支援のあり方を考えさせられるような委員会がありました。そこで1年くらいかけて議論した結論は「学生をパートナーとして考える」。いろんなところに学生に参加してもらい、大阪大学の活性を盛り上げていこうじゃないかということ、大阪大学の学生支援の基本にしようということになりました。それがずっと基本になっています。

もう一つの流れは、リーダーズアセンブリーという毎年体育会系の主将主務を集めて研修やっていて、そこでリンクアンドモチベーションの方と出会い、さらにキャリア教育が大学教育実践センターでスタートし、木川田先生と出会いました。

そして、文部科学省から「学生支援G P」の募集があり、じゃあ、これをまとめてやろうということになりました。

尾野 学生支援G Pがはじまる前からこういった考えや動きがあったということですね。

大和谷教授 大阪大学らしい学生支援をしっかりやっていかなければと考えていたところに学生支援G Pの募集がありました。まず最初に考えたことは、ボトムアップはしたくない。そういうベタウチの支援ではなく、心ある学生を育てたい。そこから、支援の輪が広がっていくと考えたいと思いました。

木川田先生にアイデアをいっぱいいただきまして、いま動かしているような支援プログラムのプランを作り、そして学生部の事務職員の方にも積極的に入っていただくようなものにしようと思いました。

尾野 今年から太刀掛先生にも入っていたいておりますが、きっかけは何ですか？

太刀掛准教授 以前、安全衛生管理部に所属していたのですが、大和谷先生が中心になさっていた大学生生活環境論というカルト予防の講義で、交通安全の話をさせていただいたのがきっかけで、大和谷先生とお話さ

してもらうようになりました。大学のリスクとして事故や災害のほかにもカルトに関するリスクなどがあることがわかりました。カルト団体はひとつの真理、これが答えなんだという提示の仕方をします。しかし、大学ではいろんな切り口や見方があり、答えがないということを示します。学生支援G Pのプログラムの意義はそこにあるのかなと思います。

尾野 木川田先生はいかがでしょうか？

木川田教授 私自身が阪大にきた縁は、ある意味で、「袖振り合うも多生の縁」ですね。前世はビジネスマンをやっていたので、それをやめて京都に隠居しようとしていたときに昔の友達にメールをだしたんです。当時、鷺田総長は副学長で教育改革を担当されていました。私はいろんな企業などに働き方をかえていくコンサルをやっていたんですね。鷺田総長は社会から魅力ある阪大生、社会に喜んで迎えられるような若い人達を育てていきたいという考え方でおられました。そんなご縁で、キャリア教育を開講することとなりました。大阪大学の法人化にあたり教育目標が、「国際性・教養・デザイン力」になりました。この「デザイン力」というところにすごく惹かれますね。これは今までの国立大学にない考え方です。今の世の中のいろんなおかしい状況を変えていく、良くしていくには「デザイン力」っていうのが必要なんだということで、阪大生が世直し集団になって、ということを頭の中で妄想していたんです。そんな時、学生生活委員会に入ったら、さきほどの「袖振り合うも多生の縁」で、大和谷先生にお会いしました。

アメリカのアスペンにいろんな業界のリーダーを対象としたエグゼクティブセミナーがあるんですが、それを日本でもやろうということで、私も関わりました。私は企業のエグゼクティブの人にやるよりは、若い人、特に大学生にやるべきだと思っていました。彼らは、高校生のときに教養や哲学の科目がなくなってしまい、深く自分が考えたり他者とのかわり方を考えることをあんまりしてこなかったんですね。それで大学でもヤングリーダーシップみたいな考え方のプログラムをやるべきだと思っていたところに、大和谷先生から声をかけていただきました。それこそパスツールの「幸運の女神は、備えある心に微笑む」という言葉があるんです。「Chance favors the prepared mind」こっちは準備ができていました。

大和谷教授 打てば響くような。

出会い





学生支援のあり方

- 木川田教授 考えていらっしゃるけど、阪大が歴史的に繋がって継承しているということが、パッと一致しました。
- 尾野 いいタイミングだったんですね。
- 木川田教授 もうグッドタイミング。
- 大和谷教授 鷺田総長がキーパーソンですね。鷺田総長が教育担当の副学長でその下で学生支援担当していました。
- 木川田教授 鷺田総長の阪大を魅力的にしていってという考え方にとけこんで、学生生活委員会という母体に入ったときに、ちょうど同じお考えであったので、「渡りに舟」って感じでした。知の縁っていうか、ナレッジ。「知縁」って私は言ってるんですけど、自ずと必然的につながる人がつながって、このプログラムが動き出したんじゃないかなって思います。
- 尾野 そういうきっかけがあったんですね。
- 大和谷教授 学生をどういう視点で育てるかということなんですが、先ほど「パートナー」って言いましたが、「パートナー」って言うのもなんかしっくりこないですね。どう考えたらいいか。学生は後輩として育てるって言う視点が一番しっくり来るんじゃないかと。まさしくそうだなあと、この学生支援GPも我々の後輩を育てたい。そして、市民社会に送り出したいなあ。
- 木川田教授 僕は、「教育」という言葉自身あまり好きじゃなかったんですね。教育は「education」で、原語が「educare」といって、引き出すって言う意味なんです。それが我々の役どころなんです。学生の持っている憧れだとか夢とかいろんなポテンシャルを、いかにして我々が引き出していか。そういう意味で、プログラム自身を教えるという感じではなく、色々な講師の方々がきっかけを与えて、そこで気付きたとか、目覚めだとか、そういうものから自ずと学生が自分たちで再認識して、また自分形成していく。かえていく、自分たちがかわっていく。それによって世の中をかわえていくみたい。あまり座学としての講義とか、そういうのは一切やめましょう。
- 大和谷教授 ひとつの答えを出さない。答えはひとつじゃない。学生の考え方をぐちゃぐちゃにしたい。
- 木川田教授 頭をぐちゃぐちゃにする。固定した既成概念というか結論を直ぐに出して、『こうだっ！』って決めつけない。
- 大和谷教授 『何でもあり！』ということを理解させたい。
- 太刀掛准教授 先日、G E C Sという環境ボランティアサークルの活動を見させてもらったんですね。そこで、学生支援GPの参加学生が実際にどんな風に自分の思いを伝えるかという方法をパワーポイントを使って、

後輩に説明をしているところに出くわしました。まさに、後輩という考え方。そうすると、学生から学生につながっていく。

大和谷教授 うれしい話ですね。まさに、それですね。

木川田教授 僕はその先輩後輩っていう考え方が好きですね。昔は世間にそういう、おっちゃんか注意したり近所のおばちゃんか色々言ってくれたりとか、兄貴分が下の子供の世話をする。そういう、先輩後輩の自然のいい仕組みがあって、世間が色々チャンスにあたえてくれたんですね。そういった環境に阪大はならないと。先輩から後輩を年長者が色々か範を示していく。

尾野 学生生活においてリーダーシップが必要なときや求められることなど、そういった場面かどういふことがあると思いますか？

大和谷教授 学生支援GPのテーマとして「市民社会のリーダーシップ」って「リーダーシップ」という言葉を使ったんですが、本当は使いたくなかったんです。

木川田教授 そうですね。

大和谷教授 「リーダーシップ」という言葉はわかりやすいので使ったんですが、僕は市民社会でコアになれる様な人間を育てたい。エリートでもなんでもなくて、キラリと光る。

木川田教授 仕掛け人とかね・・・。

大和谷教授 ある意味、「いちびり」ね。「いちびり」の人間を育てたい。「リーダーシップ」という言葉をあんまり表に出したくなかったんです。自ずと人が集まってくるような面白い人間を育てたいなってことですね。だからついて来いといって引っ張っていく人間ではなく、いつも真ん中に居てあるべき姿をちゃんと自分で考えて見ている。そういう人材を育てたいなって。

木川田教授 僕は最初から先生と意気投合したんですが、僕も「リーダーシップ」という言葉が嫌いなんです。リーダーシップの考え方は組織的にヒエラルキーでリーダーとフォロアーの従属関係を作ってしまう。市民社会には従属関係ってないでしょ。リーダーがいればそのフォロアーがいて何かしてあげるという、そういう感じの関係性というのは、もうこれからの時代には必要としない。誰か気が付いた時にその場で誰かがコアになって、仕掛けていく。場面場面によってはリーダーがかわっていくかもしれない。時に違う人がリーダーになったり、交代しながら、そういったネットワーク的な新しいタイプのリーダー。これが市民社会におけるリーダーシップ。挑戦的な言葉で、いずれその言語が21世紀にふさわしい言語となって、阪大から生まれればいいですね。

リーダーシップとは？





合宿研修

- 尾野 リーダーシップじゃない言葉が出てくる。
- 大和谷教授 市民社会におけるリーダーシップとは何かっていうことを逆に考えてもらいたい。
- 木川田教授 創造的破壊をしてほしい。リーダーシップっていうけれども、それを本当に今の世の中に必要な言語として、もう一度考えて欲しい。20世紀の言語を、21世紀ということすでに耐用年数がきた言語だから一度作り変えてみる。それを阪大がやってみるって面白いかも。
- 太刀掛准教授 僕はどちらかというとリーダーになるタイプではずっとなかったんです。今は町内会の副会長。試行錯誤でやれば、たぶん周りがそうやってリーダーと思ってくれるというか、自分がリーダーなんだというようにやることはないかなと思います。
- 大和谷教授 何でも面白がって仕掛けていくような人間がいいんじゃないかな？
- 太刀掛准教授 そこは阪大の原点の懐徳堂ですね。同志。思いを持った人が集って、その関係は、いろんな町人が資金援助をしたりしてつながっていった。そういう歴史が関西にはあるわけですから、それをもう一度考えても良いんじゃないかな。
- 尾野 合宿研修には、学年ごとにテーマが決まっていますが、各学年に対してそのテーマを選ばれた理由をお聞かせください。
- 大和谷教授 大きな流れとしては、1年次は「自分を見つめる」、2年次は「他者との関係」、3年次は「社会との関係」。
- 尾野 ステップアップですね。
- 大和谷教授 そうですね。少しずつ見方をかえていく。1年次ではあるがままの自分と一度向き合ってみようということ。2年次になると、他者との関係ということ。いよいよ3年次になったら、就職活動も

しないといけないし、市民社会に出て行くためには社会のありかたっていうのを見てもらいたい。というようにストーリー性をつけたつもりなんですけど。

木川田教授 リーダーシップ論を研究してきた僕からすると、たいへんよくできたテーマなんです。最初の『世界と日本そして市民としての私』ってところが自己認識なんです。自分を知って言う、自己認識と対話の視点から気付いていくっていう。それによって今度は自己形成ってことで、『市民との対話と協創』。それで、じゃあ自分はこういう能力を身につけていったらいいとか、対話論とか、人とのつながりをどうつけていくかっていうことが、自己形成。『市民社会変革型リーダーの使命と役割』は、役割とかいうことで自己発現。自己認識・自己形成・自己発現という形でまわって、それをした後に、先輩として今度は後輩にというようなサイクルがまわるように。自画自賛ですけど、よくできているのではないかなと。

尾野 学生のみなさんには3年とも出ていただきたいですね。このプログラムが始まって今年で3年目なので、今年で3回全部参加している学生が出てくるので楽しみです。

やはり、参加した学生と他の学生とはちょっと違ったりはするんでしょうか。

木川田教授 …なかなか難しいですね。ひいきめで見ますからね。このプログラムに参加した学生と他の学生が違うところは、人の意見を聞くところ。人の違う意見を聞くという姿勢は、阪大生の中ではこれを経験した学生達というのは、違うんじゃないかなと思います。

大和谷教授 このプログラムは、手を上げて応募させているでしょ。もともと志のあるやりたい学生がきているので、最初から違うんですね。本当に考えている学生諸君に参加してもらって、さらに深く考えるようになってくれればと思います。

太刀掛准教授 この取り組み自体も後輩につなげていくというか。

大和谷教授 世代の交代を。次世代を担う。団塊の世代から団塊ジュニアへ。太刀掛先生は私の中学校の後輩なんで。

太刀掛准教授 そうです。びっくりです。

大和谷教授 不思議な関係。

木川田教授 先輩後輩のつながり。

尾野 つながってるんですね。先輩から後輩へ。

木川田教授 先輩後輩という関係っていうのは、不思議なもので一生続きますね。

先輩と後輩



学生へ

尾野 それでは、先生方から学生へ期待することなどを一言いただけたらと思います。

木川田教授 やっぱり心配事は若い人なんですよ。日本は国際比較で、国民の豊かさ度ってことでは世界で8位。ところが国民の幸福度っていうことでは100カ国中で43位。

尾野 低いですね。

木川田教授 豊かだけど余り幸せじゃない。こういう世の中を阪大生が中心になってかえていってほしい。そのためには、前にも『Kaeru 通信』にも書きましたが、自分の『夢を創める』、自分の憧れ、自分の夢をもってそれをはじめて、世間、あんまり幸せではない世間をかえてほしい。そして、その変えること、変化を適しむ。適しむという字は適塾の『適』でね、緒方洪庵自身、世の中を創ってかえることを適しむことから、世のため人のためにつくすことを自ら適しむとするところを適しむっていうことでできてきた。「その原点から、世の中を変えていくことを適しんでいってほしい。」そのきっかけの場が、このリーダーシップの研修の場じゃないかな。気付きみたいな、最初の場合ね。そのようにしていってもらったら、うれしいんですけどね。

大和谷教授 たのしんで欲しい。けれど、いろんなことに興味をもってほしい。何でも面白がって興味を持って、自分の進路というものをせまいところに閉じ込めるのではなくて、なんでもちょっかいをかけてやってみるっていう、特に学生の間はそれができるし、興味を持ってもってやって欲しい。

太刀掛准教授 僕が学生だったころを思い出すと、これはもう時間がないからやめとこうとか、これ興味がなくなるとやめとこうなとか、消極的なところが多かったんですよね。今振り返ってみたら、もっと機会はあったはずなのに、あまり発表しなかったり、大学の中にも色々繋がりをもてればとかあったはずなのに、大学が提供したものもあったはずなのに、そういう機会をつかわなかったなって最近ちょっと後悔しているんですね。なので是非大学がこういう場を設けているっていうことを使って欲しいなって思います。それだからなんなんだ、何か得られるのかというわけではなくて、さっきも先生方がおっしゃってたように、何でも顔をつっ込んでみると、そこでつながりができて、新しいことが発見できたりすると思います。まさに今、地域の活動をやってみたらけっこう面白くて、もう少し早い時からやったら良かったなと思いました。

尾野 ありがとうございます。大学でもいろんな活動がありますし、学生達は活用していったらいいだろうなと思いました。本日はお忙しい中ありがとうございました。

そこまでやって委員会いちょう祭活動報告 No.2

前号に引き続きここまでやって委員会のメンバーに、プロジェクトごとの当日の様子や感想を聞きました。

ハンダイ探偵事務所～キャンパスを駆け巡れ！～

実施内容

日時 2009年5月1日 13:00～16:00
場所 大阪大学 豊中キャンパス
概要 チームに分かれて、いろいろなミッションをこなそう！写真にうつる大学内のいろいろな場所を探したり、キャンパスに居る人の中から条件に合うターゲットを見つけたり、普段はなかなか行く機会のない研究室に訪れて少しお勉強してみたり！カメラを持って大学を走りまわれば、「こんなところがあったんだ！」「私、こんなにがんばってる」など、さまざまな“再発見”に出会えるはず・・・☆

当日の様子

参加者さんにたくさん集まっていたで、全部で5チームになりました。ミッションの抽選をし、チームで作戦会議をしてから、それぞれ元気にスタート！それから続々と、ミッション完了！の報告メールが本部へと届きました。オブジェを見つけ、全国苗字TOP5を探し、自分と同じ出身県の人を探し、研究室ではパイプを潰したり光の不思議に触れたり・・・大学を歩き回って、疲れもしたけれど、楽しんでもらえた様子でした。帰ってきたときの皆さんの笑顔がなによりの証拠！スタッフ一同嬉しかったです。最後に、各チームのミッションの内容を発表してもらい、ミッションのポイントに応じて賞状・商品を授与しました。

感想

いろんなことが決まらないまま4月を迎え、直前まで、そして当日も、とにかく慌ただしかったです。会議を重ね、だんだん企画が固まっていき、資料づくり、宣伝活動・・・参加者は集まるのか？楽しんでもらえるか？など、大きな不安を抱えたまま、迎えた本番、けれど、たくさん参加者さんに来てもらい、それぞれに楽しんで帰ってもらったようで、本当にほっとしました。うまくいかなかった部分もあるし、しんどい思いもしたけれど、企画を通していろいろなことに挑戦し、いろいろな素敵なお人に出会えました。企画のキーワードにしてきた「再発見」と「コネクション形成」は、参加者さんはもとより、私たちスタッフもたくさん得られたようです。



阪大一受けたい授業！～よみがえれ懐徳堂～

実施内容

日時 2009年5月2日 11:30～16:40
場所 大阪大学 一号館46号室
概要 異分野の教授の方々にそれぞれの論点で問題に切り込み、基礎科学から社会問題いたるまで学問の区切りを乗り越えて、参加者とホットな議論をかわす。

11:50～13:00 「調べる・交わる・変わる」-サイエンスショップに参加しよう！- コミュニケーションデザイン・センター 平川幸秀 准教授
13:20～14:50 「科学者が明かすエセ科学の裏側」 サイバーメディアセンター 菊池誠 教授
15:10～16:40 「恋愛におけるパターンリズム」 留学生センター 瀬戸山晃一 准教授

1 年次プログラム 世界と日本、そして市民としての私

	8/17 (月)	8/18 (火)	8/19 (水)	8/20 (木)
8:00~12:00	(13:00 ~ 14:30) オリエンテーション イントロダクション	「懷疑思考入門」 菊池誠教授	相談に応じることから 「ケアを考える」 西村ユミ准教授	「演劇ワークショップ」 平田オリザ教授
14:00~18:00	(14:30 ~ 18:30) 「チームビルディング」 学生部・LMI	「他の人々が見る私たち・ 私たちが見る他の人々」 小泉潤二副学長	「考えること ～ことばの仕組み」 井元秀剛准教授	(13:00~15:00) 「エンディング」 LMI
イベント		(19:00 ~ 22:00) 「安全・安心とリスクを考える」 山本仁教授・富田賢吾講師	(19:00 ~ 21:00) 「総括」 木川田一榮教授	移動

1 日目

オリエンテーション
イントロダクション スタート！！

事務連絡のあと、大和谷先生から本プログラムの実施の背景・目的・今後の取り組みの流れなどの説明がありました。この合宿研修に対する期待もふくらみます。

チームビルディングで
お互いを知ろう

自己紹介・チーム名を決めよう

A3 用紙に自分を表現。絵を描いたり、好きな文字だったり、個性豊かなメンバーが集まりました。これから 4 日間共にするチーム名も決定。合宿研修に対する思いが込められています。

ピクチャークイズ

チーム対抗でワークをしました。みんな違う絵を見ていますが、お互いの情報をつなげていくと・・・！！

口頭のみで情報を共有するので、なかなか全体像がつかめません。「相手の前提と、自分の前提が違うこと」「伝えるとは、相手に理解されてようやく伝わったといえる」などコミュニケーションで大事なポイントを学びました。



モチベーション曲線を描く

人生においてのターニングポイントとなった時期・出来事を振り返り、その時のモチベーションの高低を紙に記入しました。グループメンバー同士で結果を共有し、メンバーへの理解を深めました。

夕食（バーベキュー）

初日の夜はバーベキュー。外のバーベキュー会場は、満天の星空が広がっていました。天の川や流れ星なども見れて、自然を満喫！



2 日目



懷疑思考入門 菊池誠先生

物事を疑い、本質を掴む

実際に起こった事件を取り上げ、あらゆる物事に対して疑うことの重要性を考えました。そもそも、懷疑的思考とはどういうものか？普段私たちが当然だと思っていることでも、深く掘り下げて考えることが必要だと学びました。

他の人々が見る私たち・
私たちが見る他の人々
小泉潤二先生

色々な視点で物事をみる

前半では、第二次世界大戦中に米国国防総省の依頼で作成された対日本プロパガンダ作品を鑑賞。日本のイメージを作りあげたものですが間違いではないことに、どのように感じるか話しあいました。後半では、グアテマラについての映像を 3 種類鑑賞しました。1 本目は海外観光客向けのグアテマラ紹介 VTR。2 本目は数年前起こったグアテマラでの観光客殺害の報道番組。3 本目はグアテマラでフィールドワークをしている学者が撮ったグアテマラのドキュメンタリー VTR。1 つの国に対して異なる視点の VTR を見て、受け取り手がどのように感じ、認識するのかを考えました。

安全・安心とリスクを考える

山本仁先生・富田賢吾先生

様々な状況を想定し、対処を考える

各グループを大学側と記者側に設定し、大学で起こった事故に対するシミュレーションをしました。大学側は記者会見を想定して事実情報の収集のあたり、記者側は正確な情報をえるため質問し新聞記事を作成しました。さまざまな立場で、起こったことを捉え、その背景を想像する体験ができました。



3 日目



相談に応じることから「ケアを考える」

西村ユミ先生

人の相談を受けるとは
どういうことか？

発症前診断（まだ発症していない病気を事前に診断することが可能な遺伝子検査）を受けるべきか、受けないべきか、悩んでいる友人の相談に乗る設定で、どのように相談に乗ればいいのかを考えました。

自分の人生を考えると、常に他者の存在があって自分が存在しています。明確な答えが出ない問題を考えることの難しさ、また解決できない問題が世の中にはたくさんあることを知りました。



考えることーことばの仕組み 井元秀剛先生

「ことば」を題材に考える訓練

課題が2つ提示され、各グループで選んだ問いをほかのグループにわかりやすく説明する準備をしました。自分のわかっていると思うことを伝える難しさを感じました。

普段なにげなく使っている「ことば」に対して、前提としている概念や切り口を捉えなおしました。「漏れているものを拾い上げていく」言語学の役割を認識しなおしました。



総括 木川田一榮先生

自分を見つめなおす

前半では、事前に行った個人の価値観・志向などを分析する感性テストの結果を見て、気づいたことや発見したこと、その理由などを発表しました。自分自身を見つめる良い機会になりました。

後半では、合宿中にあまり話していないメンバー同士で5人組をつくり、お互いにこの合宿で学んだこと、気づいたことを語りあいました。メンバーを変えて3分、2分、1分と時間を短くして話します。3回同じ事を語ることで、話す内容が洗練され、より相手に伝わるようになりました。ほかのメンバーと「経験を共有」し、お互いの成長を確認しあいました。



4 日目



朝の散歩。
空気が澄んでいて気持ちが良い！

演劇ワークショップ 平田オリザ先生

コミュニケーションでのイメージの共有をはかろう

このセッションでは、イメージを相手と共有する重要性を学びました。2人1組で相手と背中あわせに座り、呼吸をあわせて手を使わず立ち上がり、屈伸運動をしたりと身体を使ったコミュニケーションをしました。ボールを使わずに“キャッチボールをする”や、縄を使わず“大縄とびを飛ぶ”などの言葉をつかわないコミュニケーションを体験しました。また、実際台本を使用しセリフや演技を足すことで場の雰囲気を作ることの必要性を学びました。



エンディング リンクアンドモチベーション

合宿研修最後のプログラム。3泊4日を振り返ってみる

ポテンシャル派リーダー、場づくり派リーダー、演技派リーダー、ストーリーテリング派リーダーを投票で選び、上位入賞者には賞品が進呈されました。各賞の受賞式が終わったあと、各グループ内のメンバー同士で合宿研修中の「良かったところ」「改善すれば良いところ」をメッセージカードに記入し交換しあいました。4日間共に過ごした仲間からもらえるメッセージに、みんな感動していました。声に出してメッセージを読み渡しあうことで、自分では気づかなかった変化を確認でき、良い刺激になりました。



2 年次プログラム 市民との対話と協創

	9/2 (水)	9/3 (木)	9/4 (金)	9/5 (土)
8:00~12:00	(13:00~14:30) オリエンテーション イントロダクション	「人とのつながり、人をつなぐ ー相談・交渉を考える」 大澤恒夫弁護士	「障害と社会」 松原崇助教	「総括」 木川田一榮教授
14:00~18:00	(14:30~18:30) 「チームビルディング」 学生部・LMI	「少しずつ自由になる為にー 自己とむきあう / 他者とかわる」 舞踊家 岩下徹先生	「インターネットの今とこれから」 情報通信研究機構 下條真司上席研究員	(13:00~15:00) 「エンディング」 LMI
イベント			(19:00~22:00) 「哲学カフェともに考えるとは」 本間直樹准教授	移動

1 日目



オリエンテーション イントロダクション

合宿研修開始前に学生部から事務連絡とスタッフの紹介がありました。そのあとは、大和谷先生からこのプログラムの実施背景・目的・今後の取り組みなどの説明がありました。この合宿のテーマを再確認。



チームビルディング

学生部・リンクアンドモチベーション

自己紹介。 自分を色にたとえてみよう

A3 用紙に自分自身を色で表現。それを使って 1 人 1 分ずつ自己紹介を行いました。どんなメンバーがいるのかな？



大ピンチ！無人島脱出

～「究極の選択をせよ」～

マグマが流出しはじめた無人島から脱出するという設定でグループワークをしました。自分以外に舟に乗せる 4 名のメンバーを選ぶため、各グループ内で色々な意見が飛び交いました。みんなの価値観がちがう中で、1 つの答えを出す難しさを感じました。

遠い祖国を夢見て「舟をつくろう」

グループ対抗ワーク。グループの各メンバーがそれぞれちがう方向から描かれた舟の設計図を渡されます。口頭のみで情報を共有し、必要な部品（ブロック）を調達して舟を完成をめざしました。情報を共有するとき、相手の立場に立って考え行動すること、お互いの前提がちがうことを念頭に置く必要性を感じました。

夕食（バーベキュー）

初日の夜はバーベキュー。色々な人とお話をすることができました。



2 日目



人とのつながり、人をつなぐ ー相談・交渉を考える 大澤恒夫弁護士

「話し合い」、特に相談や交渉を題材にして、「人とつながる」「人をつなげる」ことについて考えよう。

全体を通して交渉の奥深さを感じ、人とのつながりや社会で共生するために大切なことを学びました。『逆腕相撲』2 人組で腕を組みお互いの目をつぶり、30 秒の間に自分の手の甲を机につける事ができたら加点されるゲームを行いました。自分を押し出すのではなく、相手を引き出すという考え方を教わりました。『能面ルールプレイ』2 人組になり会話をします。聞き手が無表情で能面になったつもりの場合、いつもの顔に戻った場合、と話し手がどう感じるか話し合いました。交渉に関する DVD を 2 本鑑賞して、それに対してグループディスカッションを行いました。



少しずつ自由になる為に ー自己とむきあう / 他者とかわる 岩下徹先生

自己との対話を行い、外の世界とのつながりを体感

岩下先生の即興ダンスの映像を上映・解説をしていただきました。次にみんなで、体をほぐして（緩めて）リラックスする動作を行い、自身が開放される感覚を実際に体験。自然に起こる感情に身をまかせることで自己との対話を行い、『自己とむきあう』ことを体感しました。また、相手の動き、表情や目線で即興ダンスをし、『他人とつながる』感覚を味わいました。



3 日目



障害と社会 松原崇先生

障害のある方々と共に生きる

前半は、はじめにペアを作り1人が目隠しをし、もう1人はナビゲート役となり研修室の外を歩いてみました。そのあと、グループ内で体験したことから気づいたことや発見したことを共有し、発表しました。後半は、障害を持った方とのより良い関わり方をグループディスカッションしました。障害を持った方々の視点に立ったとき、日々の生活はどのように変化するのか。障害を持っている方々と共生していくこれからの社会において、どうすれば共生していけるのか。その仕組みや意識の変化について考えました。



インターネットの今とこれから 下條真司先生

インターネットがこれからどうあるべきか？

昨今のIT環境について、先生からご説明いただきました。日本のネットワーク事情、インターネットのかかえる問題。インターネットガバナンスの問題をふまえて、ネットワークの中立性を考えました。そして、「医療・教育・行政・環境」のからグループごとにテーマを選び、インターネットを活用した未来の支援政策についてグループワークをしました。政策ツール（競争政策・産業政策・税制・補助金・認定・表彰など）を駆使したり、利害関係者を意識して実現できそうな政策を考えました。いまや日常に不可欠なインターネットが、これからどうあるべきか、私たちがどのように活用していくべきかが今後の未来に向けて重要であ



哲学カフェとともに考えるとは 本間直樹先生

『対話の場の設定』

『物事に対して真理を突き詰めて考えること』の重要性の認識

フランス パリのカフェで行われている哲学カフェの映像を流しながら、哲学カフェについて説明していただきました。人と人とのコミュニケーションを実現させる場として、どのようなカフェが考えられるかを議論しました。



多様な価値観で成り立っている世の中だからこそ、対話の場を持つて対話を交わすことの重要性を学びました。最後に、少しの時間だけでしたが実際に哲学カフェのような対話の場を設け、みんなで「生きる意味」について認識を深めました。



4 日目



総括 木川田一榮先生

自己に関するさらなる理解と発見の提供 プログラムにおける気づきや発見の共有

はじめに、初日に実施した個人の価値観・志向などを分析する感性テストの結果をスライドで共有しました。それぞれ1人ずつ順番に結果を見ながら気づいたことや発見したこと、その理由を発表。そして発表者が指名した人が、その発表者についてコメントをしました。自分自身を見つめる良い機会になりました。後半は、5人組をつくりお互いにこの合宿で学んだこと、気づいたことを語り合いました。メンバーを変えて3分、2分、1分と時間を短くして3回同じことを語ることで、話す内容が洗練され、より相手に伝わるようになりました。他のメンバーと「経験を共有」し、お互いの成長を確認しあいました。



エンディング リンクアンドモチベーション

本プログラムの総括・メンバー同士の振り返り

コラボレーション型リーダー、ソーシャルネットワーク型リーダー、ストーリーテリング型リーダー、ベストリーダーを投票で選び、上位入賞者に賞品が進呈されました。そして、グループのメンバーで合宿研修中の「良かったところ」「改善すればより良いところ」をメッセージカードに記入し交換しあいました。4日間共に過ごした仲間からもらえるメッセージに、みんな感動していました。声に出してメッセージを読みあうことで、自分では気づかなかった自身の変化を確認でき、刺激につながりました。



3 年次プログラム 市民社会変革型リーダーの使命と役割

	9/16 (水)	9/17 (木)	9/18 (金)	9/19 (土)
8:00~12:00	(13:00~14:00) オリエンテーション イントロダクション	「地域活動のルール」 渥美公秀准教授	「生きることを考える」 門田守人副学長	「総括」 木川田一榮教授
14:00~18:00	「チームビルディング」 学生部・LMI	「アイデンティティ論から 都市の生命に迫る」 木多道宏准教授	「社会的要請に応えること」 大阪市立美術館 篠雅廣館長	(13:00~15:00) 「エンディング」 LMI
イベント		(19:00~21:00) 「信念・コミットメントの揺らぎを考える」 瓜生崇氏・福岡晶子氏		移動

1 日目



豊中キャンパスに集合。

豊中キャンパスの図書館前に
10:00 に集合しました。
いよいよ出発です。



オリエンテーション イントロダクション

学生部からの事務連絡、開会の言葉の後、太刀掛先生から本プログラムの実施背景・目的・今後の取り組みの流れなど説明を受けました。



チームビルディングで お互いを知ろう。

自己紹介

A3 用紙に漢字一文字で自分を表現しました。選ぶ漢字も個性豊かです。



遙かなる大地を挑め！

グループの各メンバーがそれぞれ違う情報を与えられ、その情報を口頭でグループ内で共有し、制限時間内でゴールを目指すワーク。向かうべきゴールを明確にし、グループワークを進める中で注意すべき観点や、コミュニケーションの重要性などを再確認しました。

10 年後の日本、「2019 年」の特集記事を作成。

雑誌編集者という設定で、10 年後の未来を予想した特集記事を作るワーク。未来を分析しグループごとに記事を作ってプレゼンテーションをしました。社会に対して問題意識を抱き、自分達は何ができるのかを考えました。

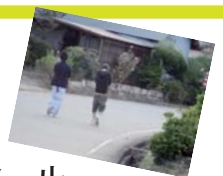


夕食（バーベキュー）

初日の夜はバーベキュー。この日も天気良く、満天の星空を見る事ができました。色々な人とお話をすることができました。



2 日目



地域活動のツール

渥美公秀先生

「災害」に関する知識の獲得 「災害」を考える機会

助け合うことの本质とは？ どうすれば強いコミュニティをつくることができるのか？ 常に災害に備えて環境を整えること、災害に強い地域コミュニティを作る重要性を考えました。

アイデンティティ論から都市の生命に迫る

木多道宏先生

「都市の生命」

プラハの街、阪大の豊中キャンパス東口スロープ公園など実例を出しながら「都市の生命の存在」について考えました。まずは「自分とは何か、自分とはどこにあるのか」を自分の大切なものを書きあげ、グループワークで意見をまとめました。「果たして都市はどこにあるのか」では、自分たちが住んでいる街を想像して、その街にふさわしい人・ふさわしくない人、ふさわしい建物・ふさわしくない建物、などどうすれば魅力的で住みやすい街になるのか探りました。



信念・コミットメントの揺らぎを考える

瓜生崇氏・福岡晶子氏

「揺らぎ無い信念」を持つことの重要性

「①要因の抽出②対処の方法③身近な具体例」の3つのフレームに沿って身近な勧誘実例を考え、問題点の追求、対処方法などをグループでまとめました。どんな意思決定においても今後の自分において意識すべき「揺るがない信念」の重要性を学びました。



3 日目



生きることを考える

「生」と「死」を見つめる・・・

「ドナーカード」を実際に一人一人に渡し、自分だったらどう記入するかを考え、議論を行いました。また「脳死」について説明を受けました。その後、生体移植の手術シーンを流し、医療現場のリアルな姿にふれることができました。

また、海外移植渡航について門田先生から5つの質問を投げかけられ、グループ内でディスカッションし、全体で共有しました。

門田守人先生



社会的要請に応えること

「地域と美術館の共生について考える」

篠雅廣館長



美術館の歴史や美術品、その管理・保全についてや、「美術館は地域があって成り立っている」ということを説明していただきました。そして、阪神・淡路大震災時に美術館が市民の避難所になったことを聞きました。篠館長から「守るべきものの選択について」質問を受けました。



自由時間では、卓球をしたり、散歩をしたり。夜は近くの温泉に行きました。みんな楽しそう！



4 日目



総括

木川田一榮先生

自己に関するさらなる理解と発見



事前に個人の価値観・志向などを分析する感性テストの結果をみて、気づいたことや発見したこと、その理由などを発表していきました。自分自身を見つめる良い機会になりました。

5人組を作り、お互いにこの合宿で学んだこと、気づいたことを語り合いました。メンバーを変えて3分、2分、1分と時間を短くして3回同じことを語ることで、話す内容が洗練され、より相手に伝わるようになりました。他の参加者と「経験を共有」し、お互いの成長を確認しました。



エンディング

リンクアンドモチベーション

本プログラムの総括・メンバー同士の振り返り



リーダーを投票で選び、上位入賞者には賞品が進呈されました。各賞の授賞式が終わったあと、各グループ内のメンバー同士で合宿研修の「良かったところ」「改良すれば良いところ」をメッセージカードに記入し交換しました。4日間を共に過ごした仲間からのメッセージに、みんな感動していました。声に出してメッセージを読みあうことで、自分では気づかなかった変化を確認できよい刺激につながりました。



第 22 回学生生活調査にご協力下さい。

学生生活調査にご協力を！

第22回大阪大学学生生活調査をKOANにて実施！
調査結果は、今後の学生サービスの充実・改善に役立てます。

阪大をあなたの力で変えてください！

＝調査実施期間＝
平成21年11月2日(月)
～平成21年11月30日(月)

詳細は、KOANの「アンケート」にある「第22回大阪大学学生生活調査」をクリック！

回答者のうち、応募いただいた方の中から**100名様**に、
生協で利用できる
お買い物券**2000円**
分をプレゼント！

プレゼント！

阪大生協お買い物割引券
500円 × 4
※本券は阪大生協お買い物券として利用できます。領収書、レシートのある店舗でのみ利用可能です。有効期限は2010年11月30日までです。有効期限は2010年11月30日までです。
有効期限 2010年11月30日 から2010年11月30日
大阪大学学生生活委員会

学生生活調査は、本学学生の生活状況や要望を把握し、その結果を福利厚生・課外活動の充実や改善及びこれらの施設の整備等に役立てるための基礎資料とするものです。本年度で第22回を数え、ほぼ4年毎に実施しております。今回は全学部生・大学院生を対象とし、KOANを利用して調査を行います。学生の皆様のご意見を伺う絶好の機会となりますので、「学生生活調査」へのご協力をよろしくお願いします。

なお、回答者のうち、応募いただいた方の中から100名様に生協で利用できるお買い物券2,000円分をプレゼントします。

大阪大学学生生活委員会

【お問い合わせ】

学生部学生支援課総務係

06-6879-7162

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/2009_11_30

EDITOR'S NOTE

☆今月号は、NO.5&NO.6 合併号として内容盛りだくさんでお届けしました。

今回、学生支援G.P「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」プログラムを担当されている大和谷教授・木川田教授・太刀掛准教授による対談の様子をお伝えしました。プログラムの立ち上げ、阪大生に向けての期待などを熱く語っていただきました。先生方のこのプログラムに対する思いを感じていただけたと思います。

☆8・9月の合宿研修では、多くの学生の皆さんにご参加いただきありがとうございました。様々な分野で活躍されている講師の方々から出される問いを仲間たちと話し合う、貴重な体験だったのではないのでしょうか？参加された皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

INFORMATION

「Kaeru 通信くりふ」では、引き続きリーダーシップにちなんだ活動をしている方・団体の情報を募集しています。皆さんの活動を多くの人に知ってもらいたいと思っている方！投稿をお待ちしています。

【お問い合わせ】

大阪大学学生部キャリア支援課キャリア支援第一係
gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp

NEXT ISSUE No.7

☆ポスターセッション☆

2010年1月7日(木)に行われる
ポスターセッションの模様をお伝えします。

☆MESSAGE☆

学生部キャリア支援課キャリア支援第一係
奥諭一係長が登場します。お楽しみに！！

次号発行日は

平成22年2月5日(金)予定。